



み

う

ら

と

MIURATO



成年向

Renai-Mangaka Presents
YOTUBATO Fan Book
For Adult.

中学に入つて二回目の夏休みの、つい先日のこと。

よつばちゃんと小岩井さん、ジャンボさん、風香お姉ちゃん
そして私とみうらちゃん、コテージに泊まりに行つた。

そこで、衝撃の事件が。

何と、風香お姉ちゃんと小岩井さんの…現場を、私と
みうらちゃんが見てしまったのだ。

勢い余つたみうらちゃんは、眠つてるジャンボさんを
襲つて、そして…最後まで致してしまつた。

朝起きたジャンボさんは、隣で裸で眠るみうらちゃんと
布団の中の惨状に（血とか）頭を抱えてしまつた。

ジャンボさんは何も悪くないのに…

止めるどころか、現場でその様子を目の前で見ている私は
ジャンボさんに平謝り。

今も深く反省して罪悪感でいっぱいなんだけど…

「なーなー、恵那もエッチしちゃおうぜー!」

などと言いつつ、まとわりつく無反省少女一人。

ブチッ、と何かが私の中で切れた。

「いいよ…ただし、私の指示に従つてもらおうからね」





私の部屋。
家族はみんな、それぞれの用事で
当分帰ってこない。

ジャンボさんには、みうらちゃんに
反省してもらうために色々と協力を
要請した。
かなり突飛な方法なので、直前まで
何をするかは内緒にしておいた。
「みうらちゃんの事は私が一番分かる」
と言う私の言葉を信じてくれて、全部
私の言う通りにしてくれる。
ありがたいけど、申し訳ない気持ち
にもなる…

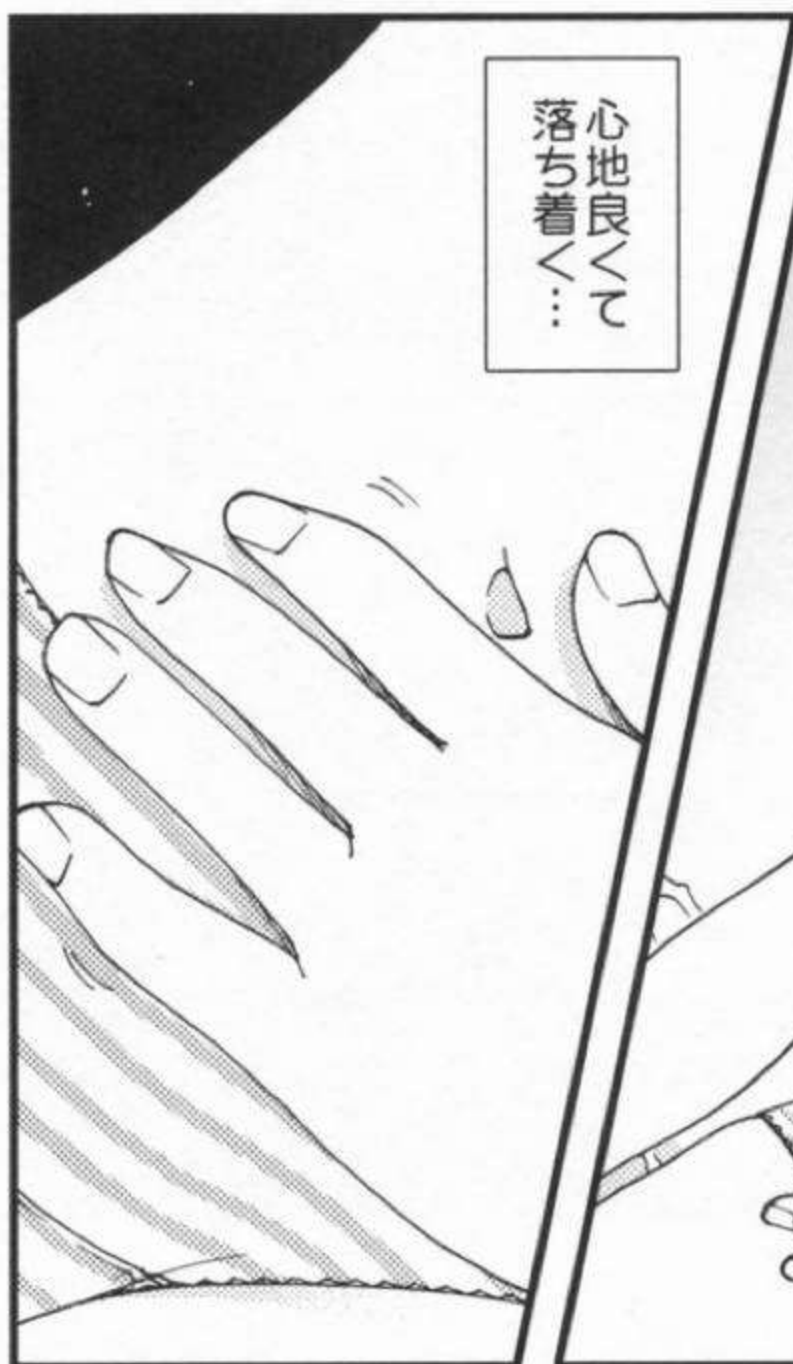
みうらちゃんへの条件。
何も言わない事。
手出ししない事。
それだけ。
つまらなそうな顔をしたけど、
とりあえずはOKみたい。

私の狙い。
何も出来ない相手に対して、一方的に
自分のいいようにしちゃうのは、酷い
事だって体感してもらおう事。
みうらちゃんの場合、ただ見せ付け
られるのは苦痛だと思うから。
それと、もう一つ。
きちんと、みうらちゃん自身の
気持ちを自覚してもらおう事。
ちゃんと分かってないから、私に
「ジャンボさんにしてもらえ」
なんて言えるんだと思うから。

自分が、誰を好きなのか。
思う存分、分からせてあげるんだ。

でも、私も反省する部分はあるので。
すごくすごく、恥ずかしい思いを
する事にしてるんです…





撫でてもらうの
すごく気持ち
いいですね

俺の指
ゴツゴツ
してない？

んー！
大丈夫！
全然気に
ななかった

だって…
心も身体も
熱くなつて

もっと
して欲しく
なってるもの

こんなに
昂ぶつてたら…
すぐイっちゃう
かもしれない

あの…
そろそろ
次の段階に…

…胸とか
下半身とか…

ほ…
ホントに
するの？

恥ずかしい
けど…
ほし
いから

はい…
お願いします

そ…
それじゃ…

あっ
大丈夫？

大丈夫…
すごく気持ち
いいから…



ゴメンゴメン
ちよつと触り方
変えるよ

これでどう?



やあ…
くすぐったいよ

すごい…
全身が敏感に
なってる



何だか
大人が
感じが
して

ドキドキ
する…

あ…
それ…



何でだろ
ムカムカするよ
うな
イライラするよ
うな

何だよ…
こつち全然無視で
楽しんじゃつてさ…

胸モヤモヤする…
心臓が変に
チクチクする

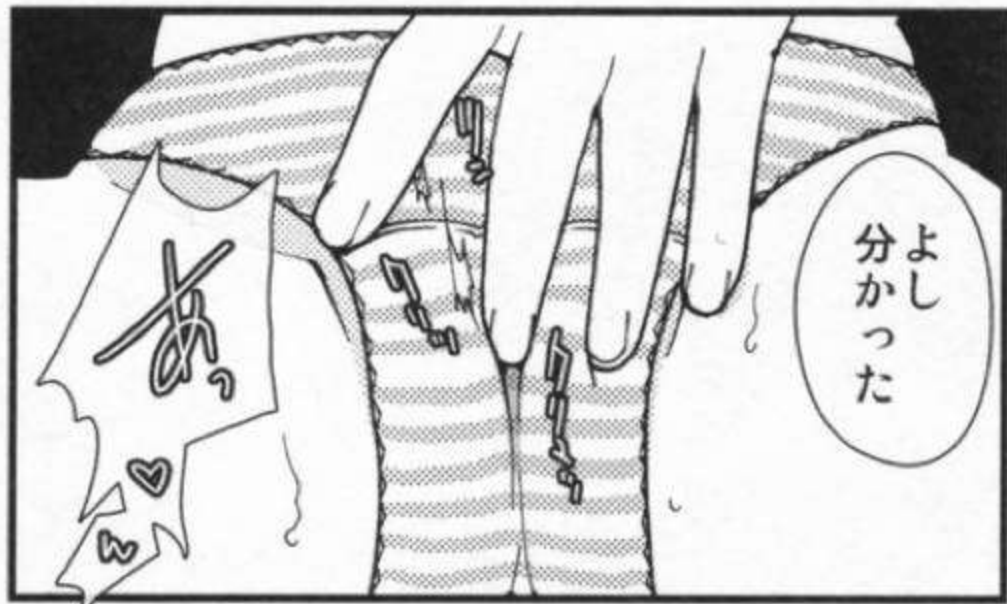
くそ…
何なんだよこれ



あ…

いよいよ…
下半身なんだ…

うわ…
ふともも
すべすべだな





大丈夫？

…うん
気持ちよすぎて
ビククリしちゃった…

してもらって
すこいな…
こんなに
あつさりいっちゃうなんて





私は、いつの間にか…
涙を流してた。

恵那が近づいてきて、私の事を
そっと抱きしめた。

「悲しいの？」と問われる。
けど、自分でも何で泣いてるのが
分からない。

「ゴメンね、意地悪して…」
恵那は謝るけど、元々は私が
言い出した事だった。

それに、状況は前と同じ。
前は、私がしてるのを恵那が見てた。
今度は、恵那がしてるのを見てた。

だから、恵那は悪くない。
悪いのは私だ。

寝てるジャンボに勝手に悪戯して、
同じ事を恵那にもさせようとしてた。

「ゴメン…ゴメンね恵那…」
泣きながら謝る私の頭を、恵那は
優しく撫でてくれる。

「さ、もう一人謝る人がいるでしょ」
そっと後押しされる。

「…ごめんなさい、ジャンボ、さん」
心の底から、反省する気持ちを
伝える。

「ん…まあ俺は怒ってないし…
けど、自分を大事にしないのは
やっぱり感心しないから、それは
分かっといてほしいぞ」
優しいジャンボの言葉。

でもそれは、私にとって、ある意味
起爆スイッチになった。

「好きだから…だよ」



そうか。
私は、ジャンボの事が好きだったんだ。
言葉にしてみても、ようやく分かった。

本当は好きなくせに、照れくささとか
余計な感情のせいで、それを認めない
ように、勝手にジャンボに悪戯したり
恵那に「してみたらいい」なんて
言ってたんだ。

小学生男子並みの自分に、落ち込む。

もう後悔したくない。
ちゃんと、自分の気持ちを伝えたい。

服を脱ぐ。
何も無い、ありのままの自分を、
ジャンボに見せたい。

驚くジャンボに抱きつき、キス。
ゆっくりと離れて、見詰め合う。

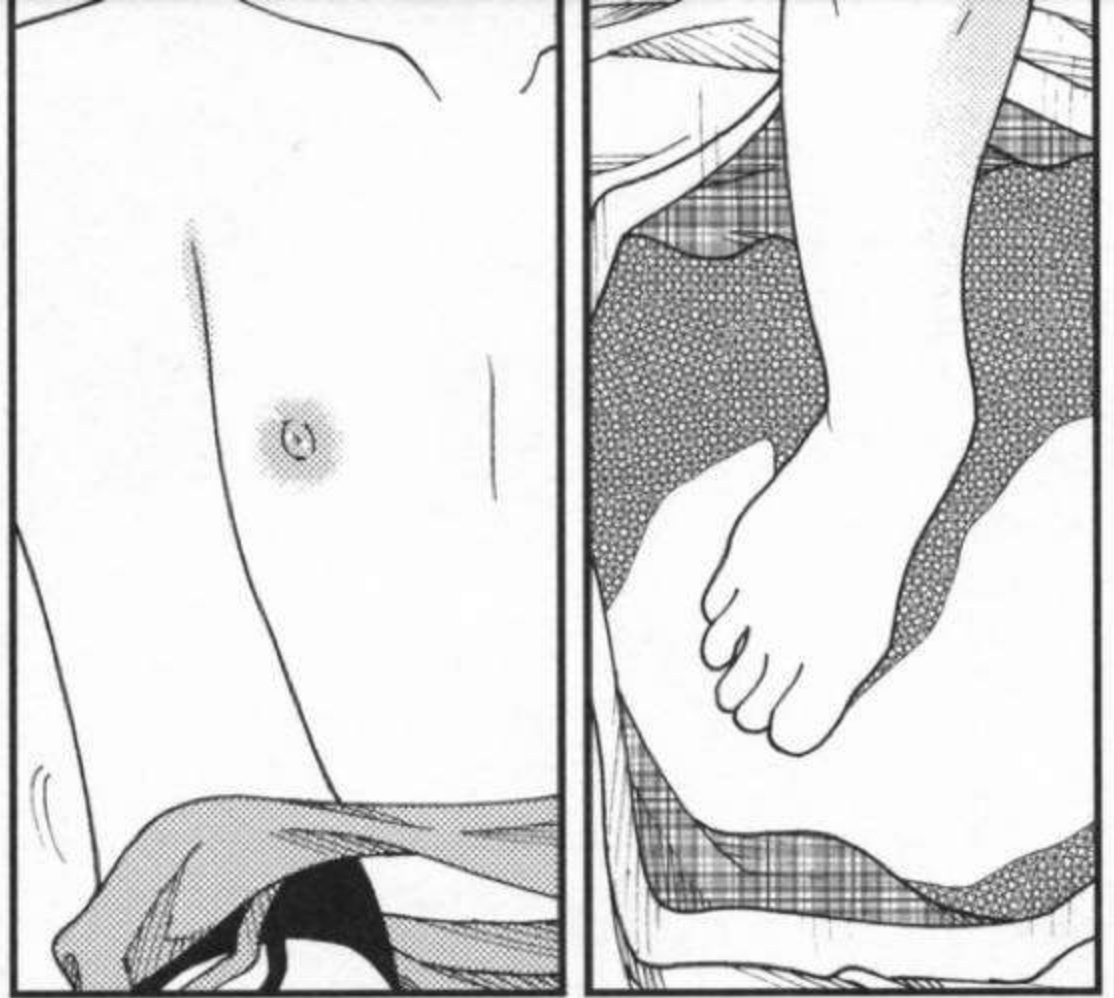
「……いきなりだな」
「ゴメン…でも、分かってほしいから」
今の自分の精一杯の気持ち。

「…こんなおっさん好きになっても
しょーがねえだろ…」
ため息をつくジャンボ。
でも。

「しょうがない、なっちゃったんだし」
そう、私は自覚してしまった。
だから。

「ねえ、お願いがあるんだけど」
「…聞ける範囲で」
「けじめをつけたいんだ」
「…まあ、けじめは大事だな」
「だから、私の初めて…ちゃんと
もらいなおしてほしい」

しばしの無言。
そして。
「終わったら、元の関係に戻るからな」
嬉しい承諾の言葉だった。





何か変かな？

あ…いやっば随分華奢だなと



それじゃ…改めてよろしく



おおい…おおい…ちよっと何でパンツを下ろすんだ



でも…ジャンボのここに全部入ったんだよ

それに…



信じないとかじゃなくて…

気持ちいい所擦ってあげると

こんな風に大きくなるんだよね



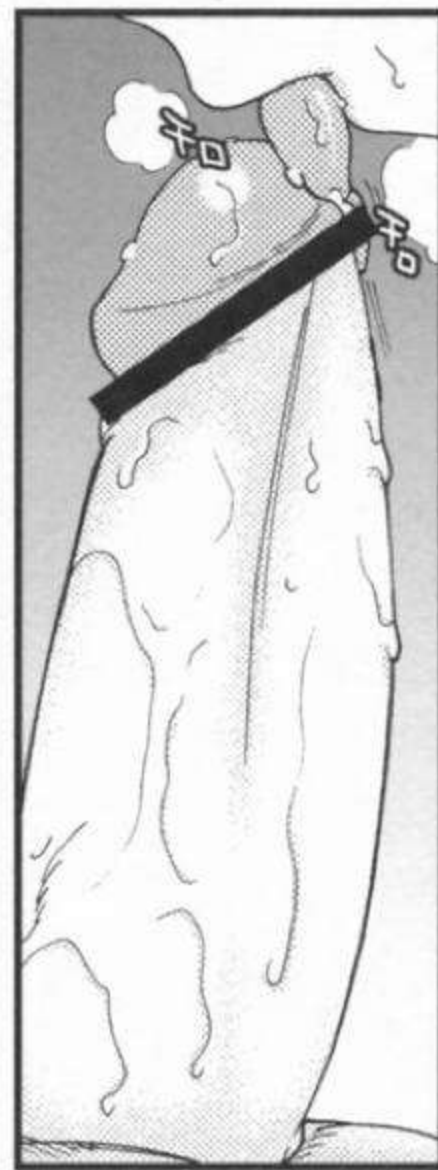
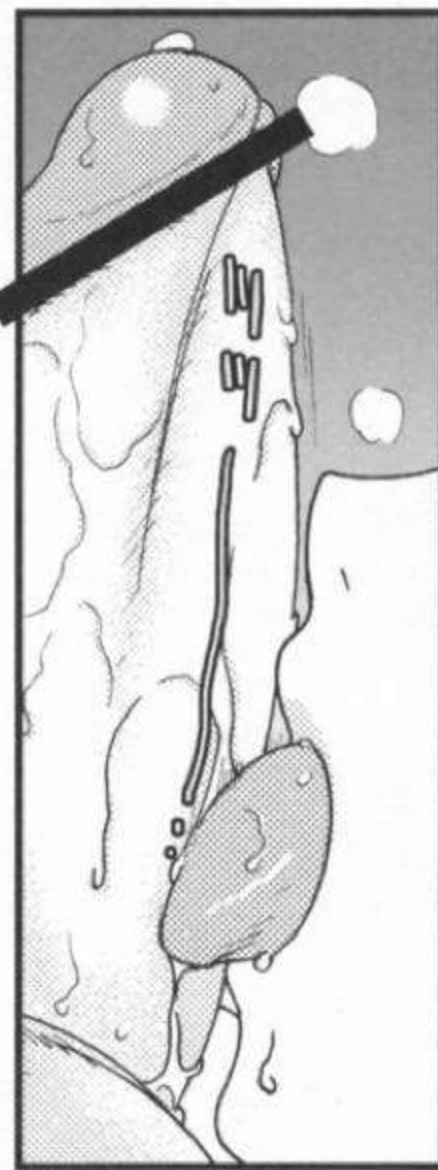
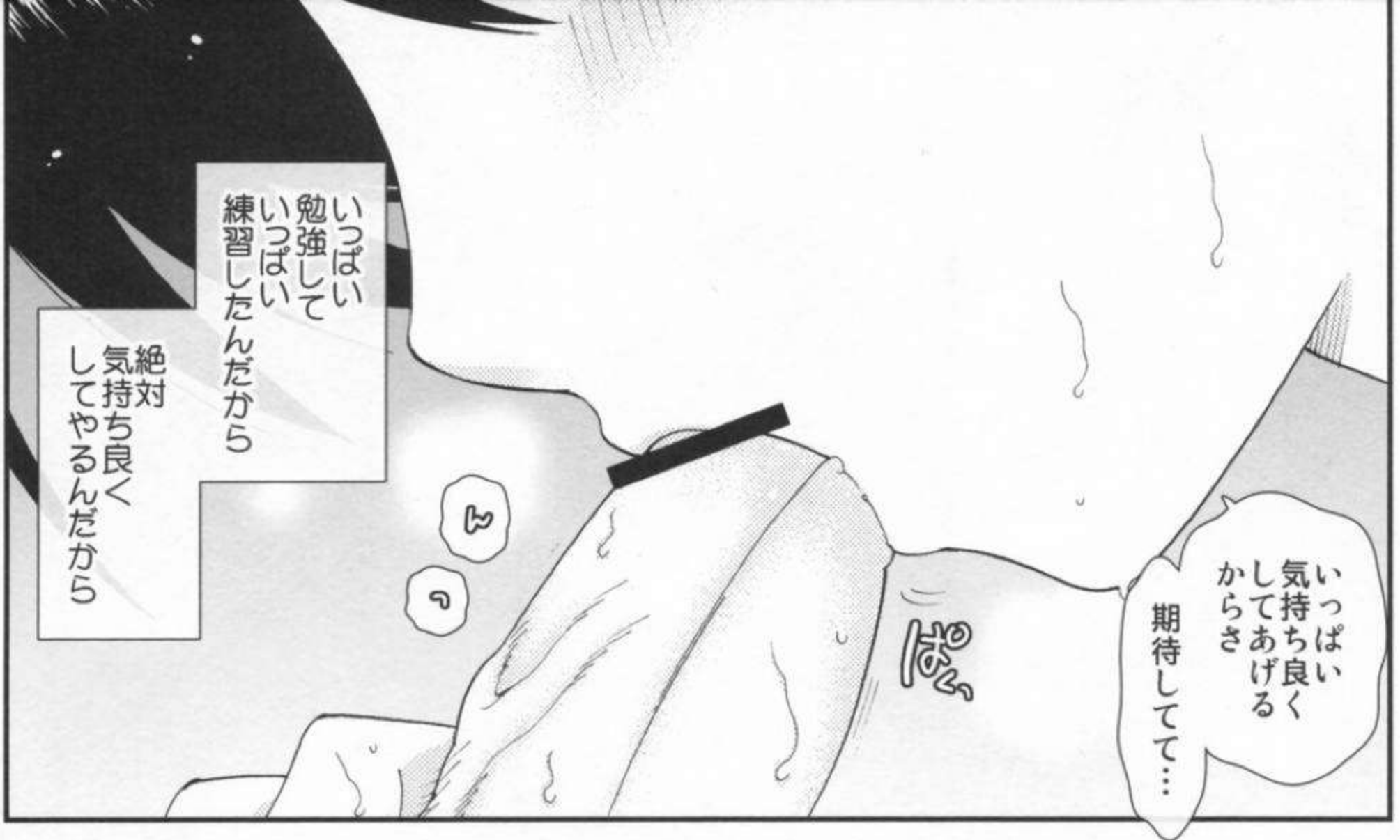
えへへ…まだちっちゃいね

これもいっぱい可愛がってあげたんだよ

く…口で…お前…

そんな事までしたのか？

あれ信じないの？





あの…な
無理する事
ないんだからな

はま

無理してないよ
：そりやまあ
すっげー
恥ずかしいけど

でも…
覚悟したんだ
せめて今は
素直になるって

今の私を全部
ジャンボに
見てもらいたいから

は
は

は



ん…
すげー
ぬるぬるしてる

はま

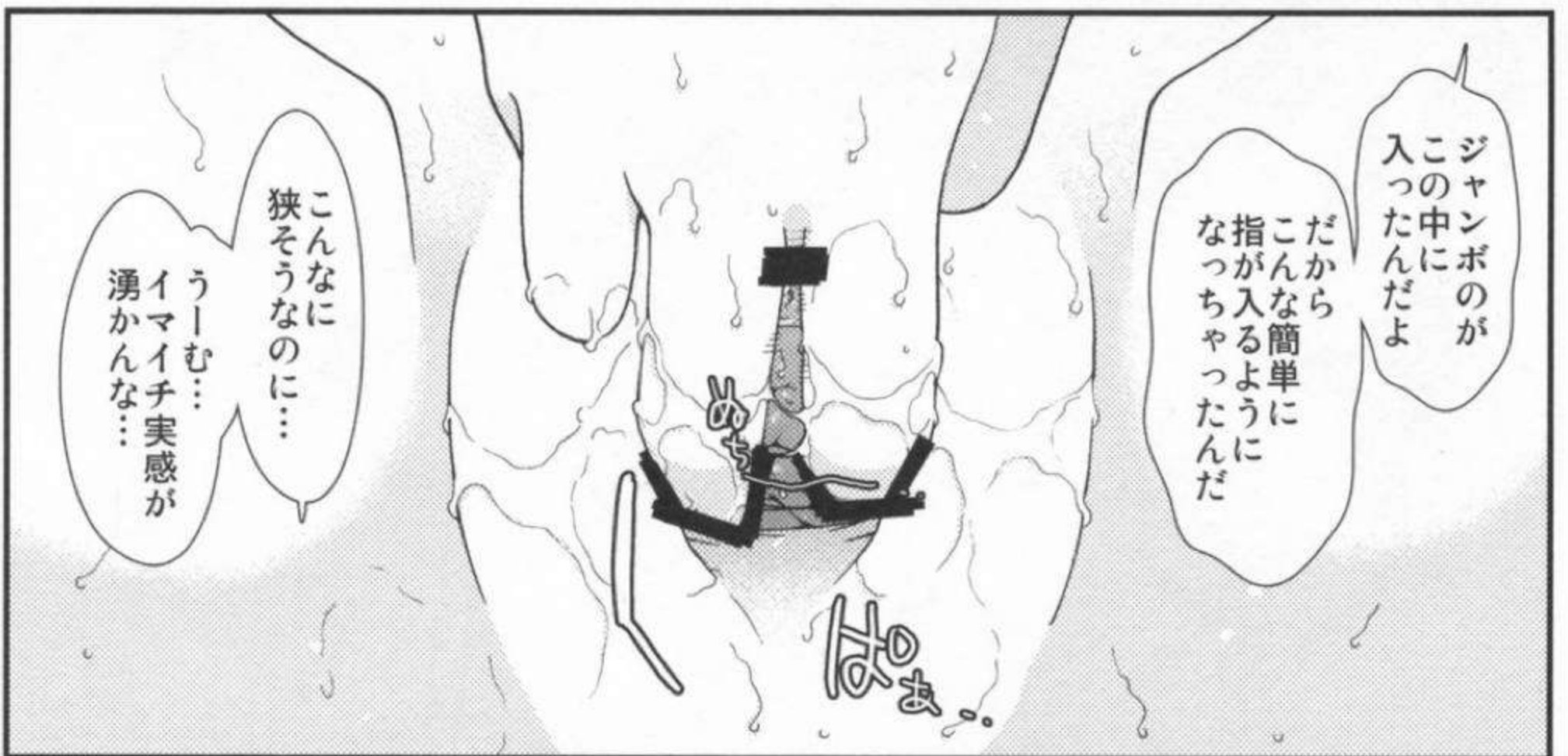
いっぱい
濡れてるから
指もすんなり
入っちゃう…

ちやんと
見える？

あ…ああ
そりやもう
見え過ぎな
ぐらい

はま

はま



ジャンボのが
この中に
入ったんだよ

だから
こんな簡単に
指が入るよう
になっちゃったんだ

はま

こんなに
狭そうなのに…

うーむ…
イマイチ実感が
湧かない…

めち





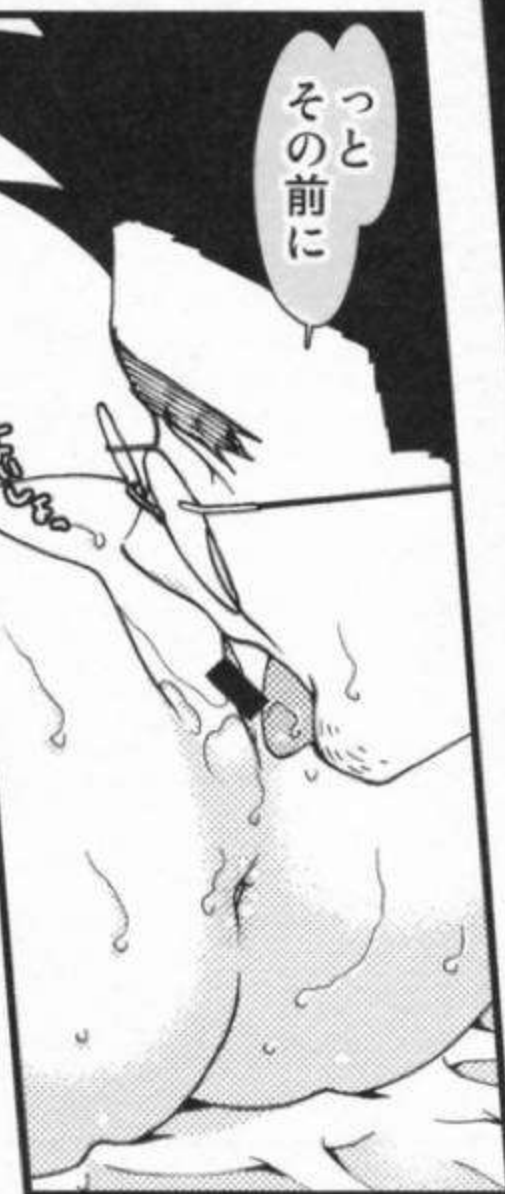
何って
お返したよ

?



何して…

ちよっ



っと
その前に



…よし

覚悟決めたよ
みうら



そ…そういうのは
恥ずかしいから

早くジャンボの
欲しいよ…
一つになんたい

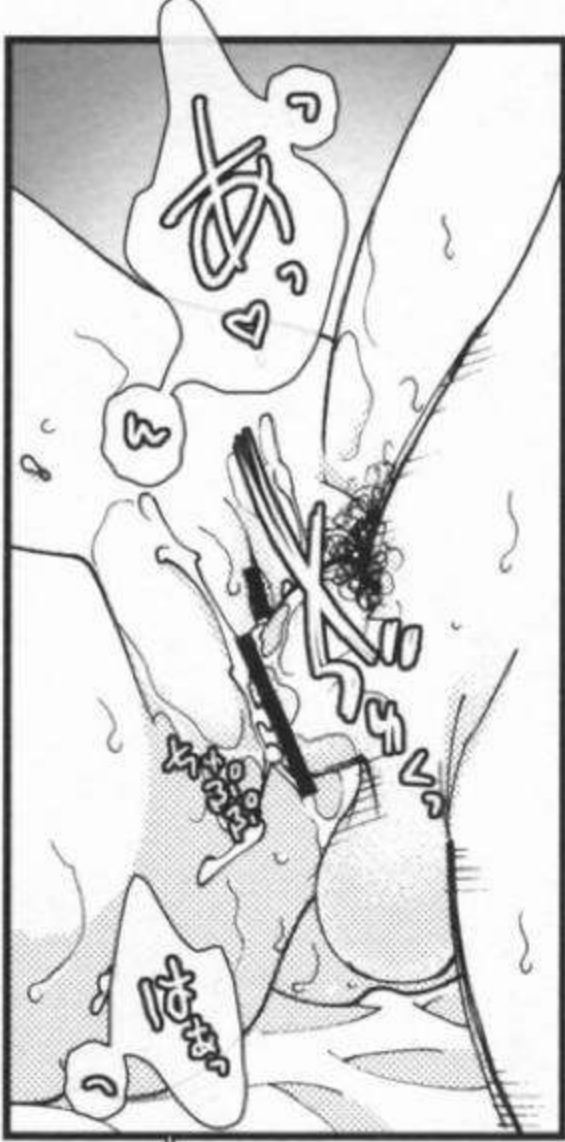
じゃないと
恥ずかしくて
死んじゃう…

死なれちゃ
困るな…
しよるか

は は

ト





すごいな...
入り口が
広がっているに

それでも...
ちゃんと
受け入れ
られるよ

うあ...
大きいから
いっぱい擦れるよ

ねえジャンボ
ちゃんと
気持ち良
なってる？

ああ...
すげーいいよ
みうらの中

そっか...
嬉しいな...

ああっ
また大きくなった

ねえジャンボ
精液出して
私の中
いっぱいにして

それをまた
擦り付けて
ほしませ
て

そしたら私
ジャンボの
ものに
なれる気がする...

くっ...
わ...
分かった



ジヤンボ...
大好き!



よく頑張ったね...
すごく可愛かったよ
みうらちゃん

ん...
ありがと恵那
ゴメンな
気つかわせて

みうらちゃんが
幸せなら
それでいいよ

私ホント...
幸せ者だな...

とりあえず。
「せめて、結婚が出来る年齢まではこういう事は禁止」と決まった。
又句を言ったら、「じゃあもう一緒に遊びに行かない」だって！
そういう風に言われたら、条件を飲むしかないし…
けど、ジャンボは私の事を思って言ってるんだろうし。
今のところは、素直に聞き入れる事にした。
ま、自分の気持ちが発覚できて、それを伝える事も出来て、現状は満足。

恵那とは相変わらず仲良し。
真面目で優しく時々お説教する。
今は「早くダブルデートしたいから彼氏作りなよ」とせっついてる。
けど、いつも笑ってごまかすから、今はその気がないのかな。

いろんな意味で、少し大人になれた気がする今年の夏。
秋も冬も春も、少しずつ成長して。
そしたら、ジャンボも私を受け入れてくれるかな。

「大好き、だよ」

あとがき

読んでいただきましてありがとうございました。

今回もよつばと本でした。
前回、本当に書きたい部分を書けなかったのが、間を置かず作りました。
とにかく、絵も話も「可愛さ」を意識して作りましたが、上手くいってるといいな。
概ね満足です。
ただ、よつばの事を書く余裕がなかったのは残念です…
いずれリベンジで、いっぱい書いてやろうと思っています。

って事で、今回はまあ本編では絶対出ない話だろうなーと思いつつ。
みうらとジャンボの恋愛を描写しました。
年齢差はかなりあると思うけど、いつか結ばれるといいなあ。
まあ、みうらは恋愛ごとには疎そうなので、当分先になるでしょうけど。

それにしても、よつばとは読めば読むほど
味が出てきて、愛着が湧いていいですね。

ついつい話作りの資料として単行本を読んでいるのに
いつのまにか最初から通して読んでいたり。

また多分、よつばと本を作ると思います。
書きたい話がいっぱいあるので。

ではでは。
また次にお会い出来たらと思います。



制作
恋愛漫画家
発行日
2007年12月31日
印刷
Power Print
連絡先
hironasu@mud.biglobe.ne.jp
HP
<http://www.renai-manga.com/>

無断転載・複製はお止めください

み う ら と

Renai-Mangaka Presents
YOTUBATO Fan Book
For Adult.

